

岡山市子ども・子育て会議

放課後児童クラブ部会(第1回)

日 時：平成25年10月8日(火)14:20～15:20

場 所：岡山市職員研修所（ほっとプラザ大供内）3階 「第3研修室」

開会

部会長あいさつ

委員・事務局自己紹介

資料確認

議事

・成立確認

委員7名中6名出席（委員1名欠席）により、過半数を充足し、成立を確認

・(1) 国における放課後児童クラブの基準等の検討状況について【経過報告】

事務局 (ガイドラインに基づいて説明)

委員 子ども子育て新システム基本制度で例示された内容と、他の制度で定められている基準は何か。

事務局 新システムについては資料3の3ページの一番下、他の制度については、資料4の4ページから各施設の比較を載せている。

委員 厚労省から出されたものに、この会でいろいろ意見を出したら良いのか。

事務局 まだ国で検討の段階だが、それを待っているのは遅くなるので、早めに皆さんに協議をお願いしたい。

委員 学校の空き教室がいっぱいあるのに、児童クラブで利用させてもらえない。矛盾している。いろんな問題があるが、どこに重きを置くのかを話し合ったら良いのかと思う。

部会長 国の方も、先に議論が進んでいるのではない。これから検討を進めていく上で、国の方針と岡山市の現状を照らし合わせ、話し合いをしたい。資料が多いので、要点をピックアップしていただくとありがたい。地域の声をあげてもらい、良いものをあげていきたい。

委員 多岐にわたって問題があるのに、月に一回の会議では難しいのではないか。

委員 児童クラブが90足らずある中で、岡山市は施設や指導員の状況を調べているのか。

事務局 調べている。

委員 運営は各クラブが独自に行っている。それをひっくり返すのであれば、それだけ論拠がないといけない。運営委員会方式には40年あまりの歴史がある。これだけの時間では、この問題を整理するのは難しいのではないか。

委員 ガイドラインなどの基準に達していない現状を把握しているか。小学校に上がってからの子どもたちをどうするかという問題なので、教育委員会（文部科学省）

と厚生労働省が一緒になって境目をなくして行かない限りは、根本的な解決にはならない。

委員 岡山っ子が今、全国に比べて問題のある子どもたちが多いため、全国の基準と同じことをやっているだけではだめ。全国の基準を超えるような基準を作るべき。

委員 有資格者という方も必要だが、暖かさのある方が来てくれるのも良い。有資格者がどんなに有能でも子育てした人にはかなわない。資格者のみではなく、そのようなどころを考えてもらいたい。

部会長 様々な意見があって難しいところがあるが、より良いものにしていきたいということは繋がっている。タイトなスケジュールになると思うが、協力いただいて進めていきたい。基準について今日は説明ということでしたから、次回以降、協議に入っていく。みなさんも地域の声を聞いていただいて、反映していただきたい。

委員 発達障害、知的障害の子どもがたくさんおられる。見ることができる専門の指導員も必要。だから指導員の質というの必要なのだろうと、理解ができる。

委員 関連して、保護者が障害を認めない場合は児童クラブへは補助金が出ない。指導員がその子に対して、かかりつきりになるという問題点がある。

・(2) ニーズ調査について【報告】

事務局 (説明)

委員 設問の内容が適切か審議しないのか。

事務局 報告になる。

部会長 内容について、みなさん良いか。

(意見なし)

部会長 ニーズの把握は大切なことなので皆さんよろしく。実際に指導員や運営委員会の方など運営している立場の希望の声を聞く場はあるか。

事務局 いくつか児童クラブへ行かせていただこうと思う。

部会長 保護者だけでなく実際に担当されている人の声も聞いていただきたい。

・(3) その他

今後の部会のスケジュールについて

事務局 (説明)

部会長 今日予定されていた議題は、全て終了した。

閉会あいさつ